

第3章 計画策定の背景について（都筑区を取り巻く状況）

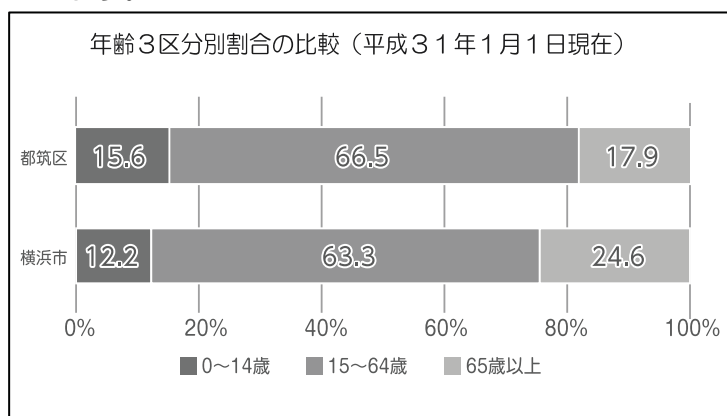
○統計データ

◆人口等動態 等

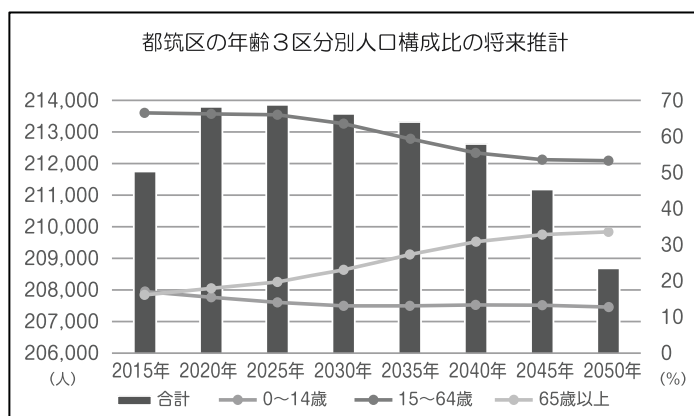
都筑区は子育て世代が多く住み、区民の平均年齢が最も若い区です。

一方で、高齢者人口の伸び率は高く、これから高齢化がますます進んでいくことが予想されます。

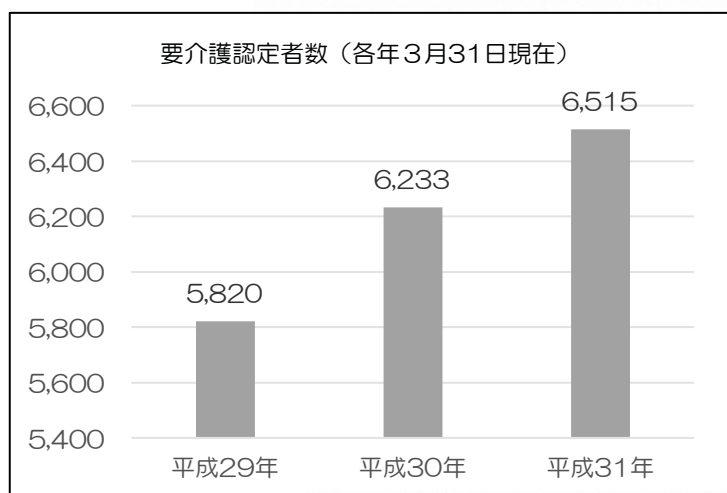
また、区内の「ひとり暮らし高齢者数」、「要介護認定者数」、「障害者手帳の交付数」などについて、第3期計画を策定した時期（平成27年）と比べ、いずれも増加しており、今後も増加することが見込まれます。



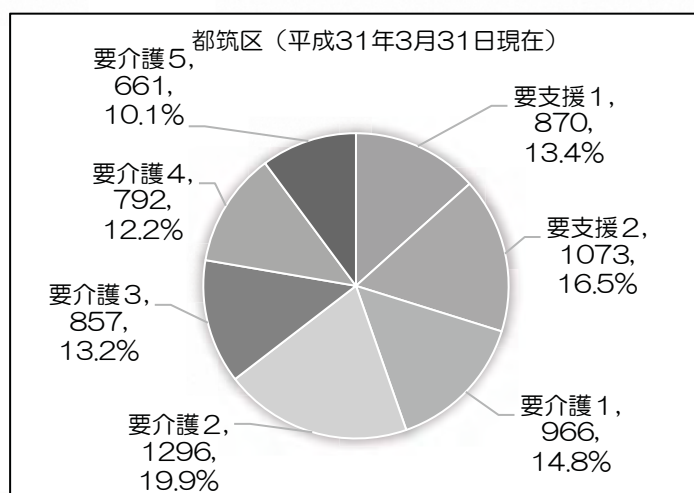
出典：横浜市統計情報ポータル



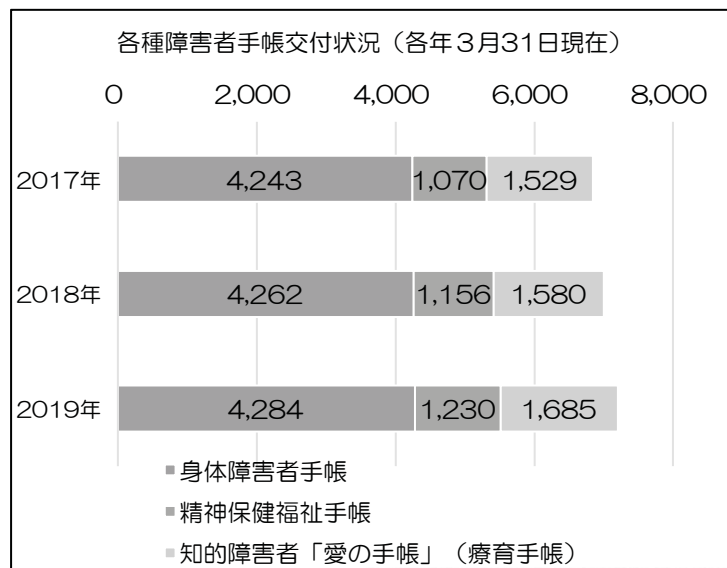
出典：横浜市統計情報ポータル



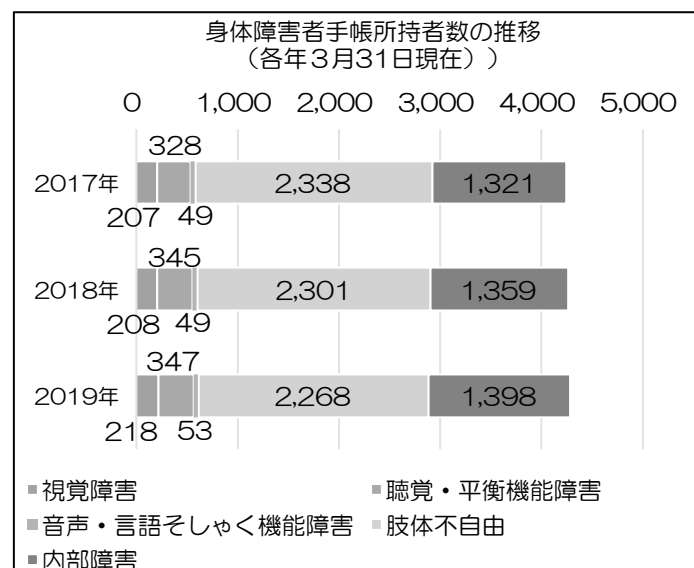
出典：都筑区高齢・障害支援課



出典：都筑区高齢・障害支援課



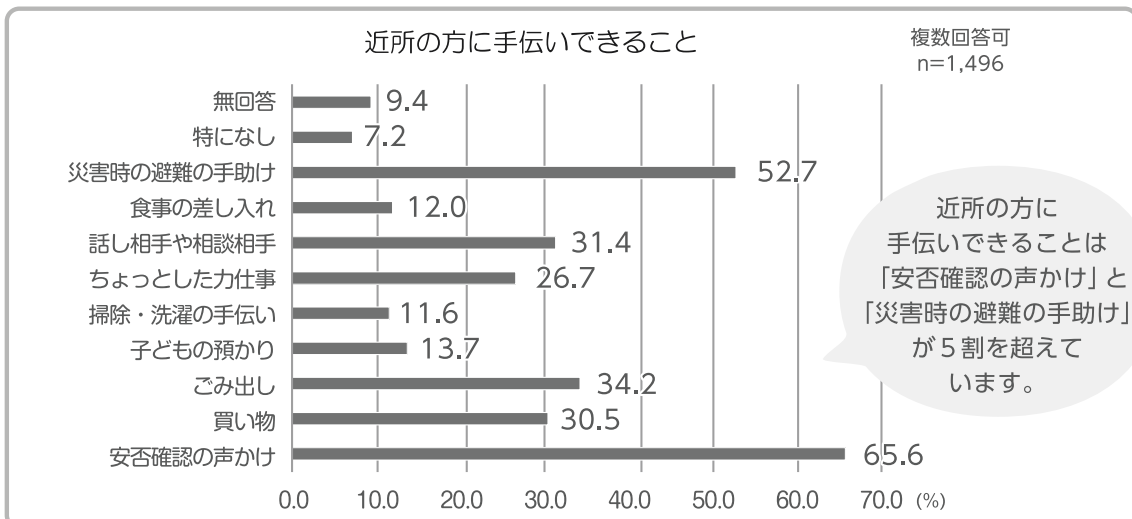
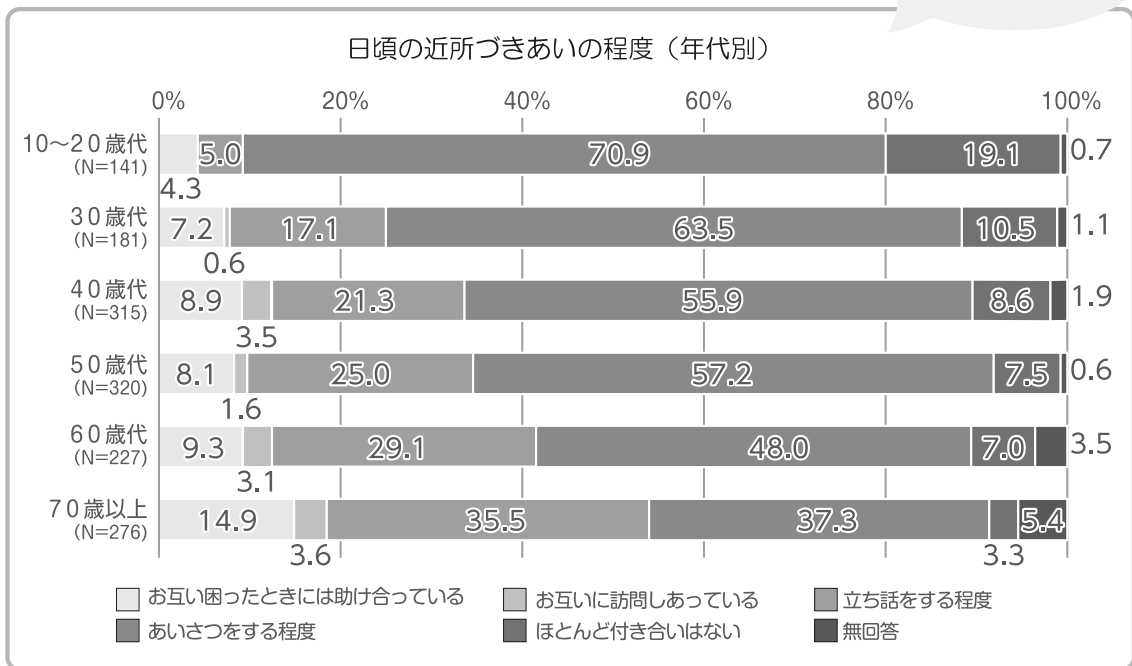
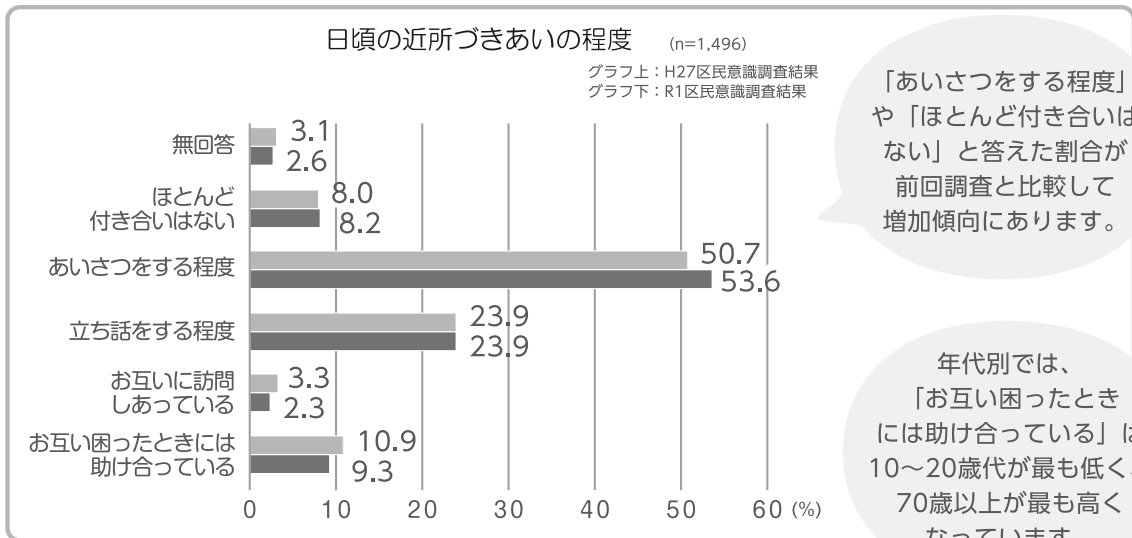
出典：横浜市統計書



出典：横浜市統計書

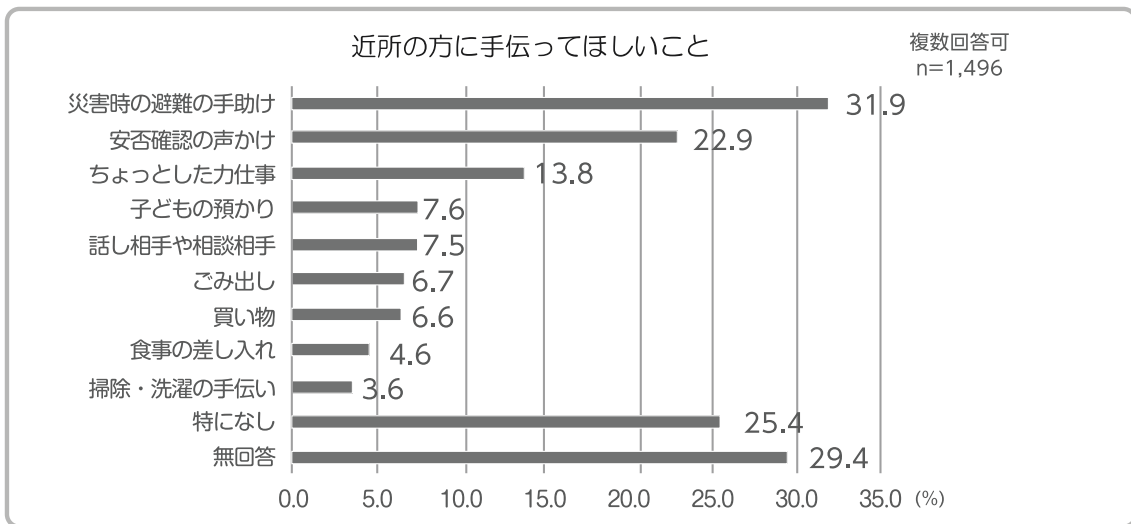
◆隣近所とのつながりについて

日頃の近所付き合いの程度について、「あいさつをする程度」との回答が最多である一方で、近所で困っている人に対して、過半数の人が「安否確認の声掛け」や「災害時の避難の手助け」について、3割以上の人が「買い物」や「ごみ出し」、「話し相手や相談相手」について、手伝いができると回答しています。



出典：都筑区区民意識調査

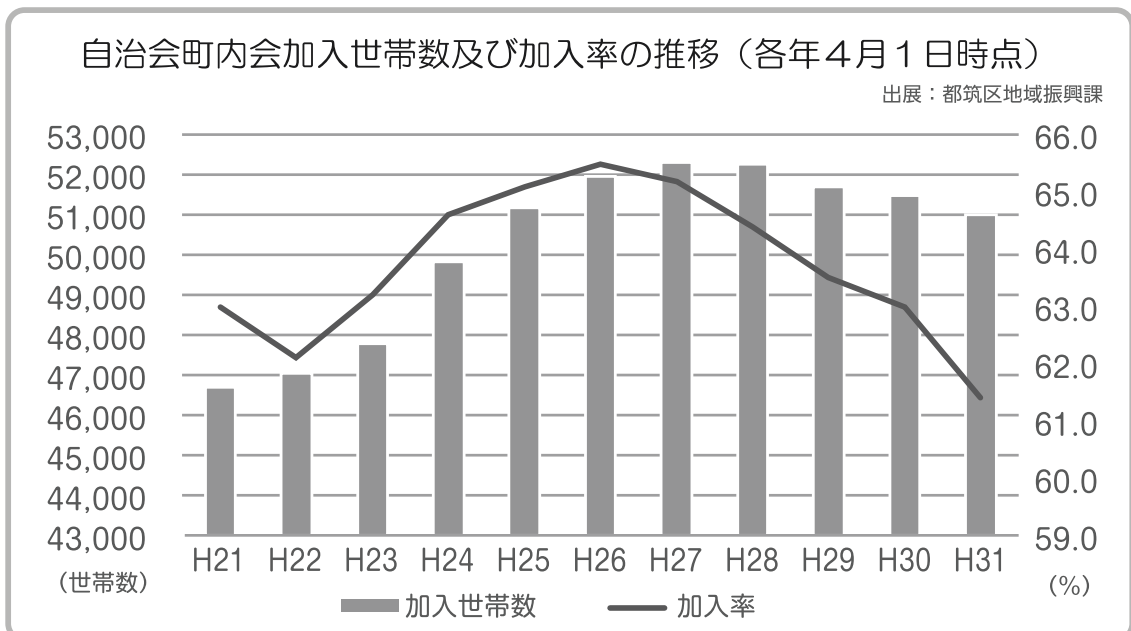
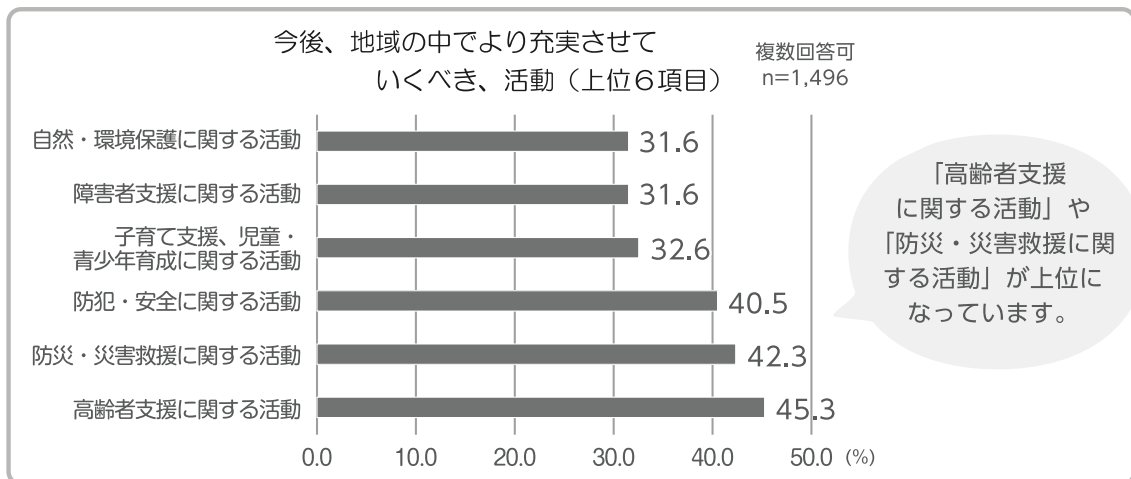
○地域の方に手伝ってほしいこと



出典：都筑区区民意識調査

◆地域の活動について

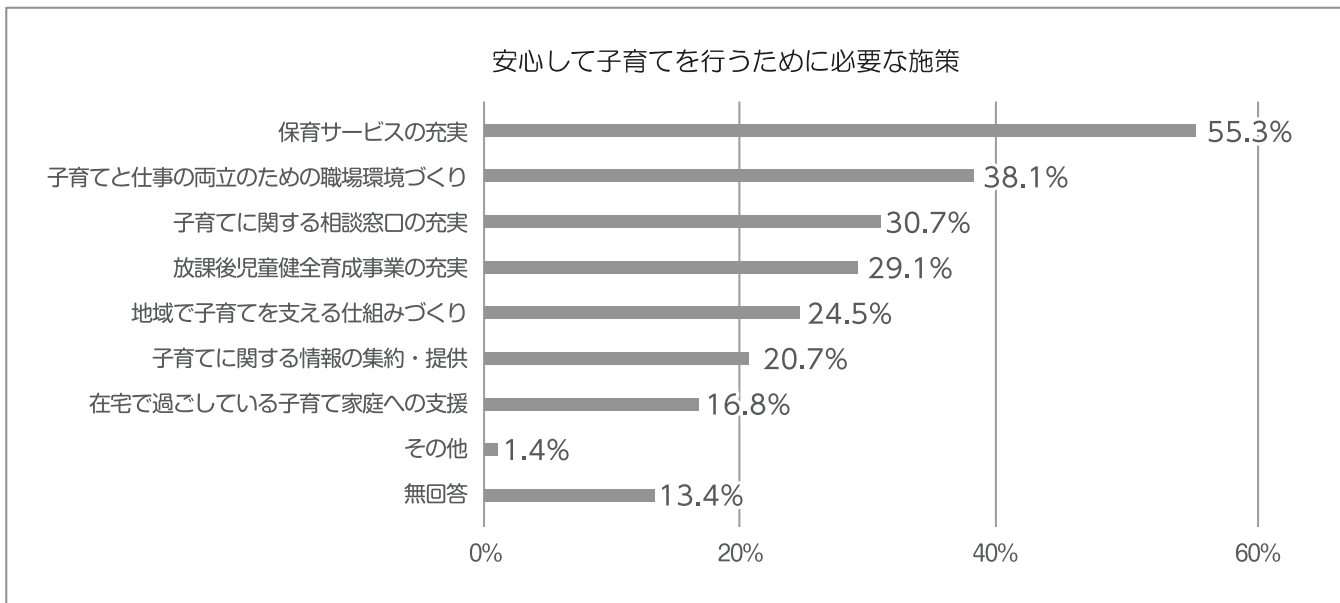
地域活動で、今後充実させていくべき活動について、「高齢者支援に関する活動」との回答が最多であり、「防災・災害救援に関する活動」や「防犯・安全に関する活動」と続きます。また「子育て支援等に関する活動」や「障害者支援に関する活動」の回答も多く、共助の取組に対する意識の高さがうかがえます。



◆子ども・子育て支援について

安心して子育てを行うために必要な施策について、過半数の人が待機児童の解消や多様な保育ニーズの解消などの「保育サービスの充実」が必要と回答しています。

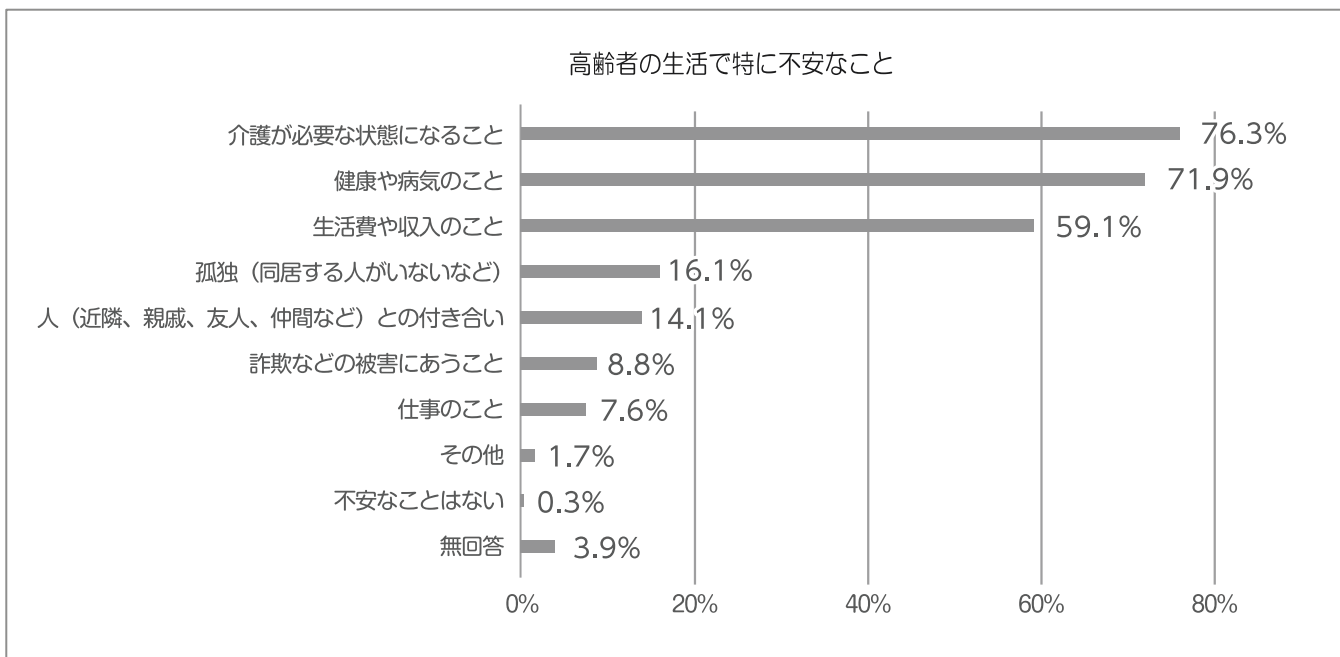
また、「地域で子育てを支える仕組みづくり」や「子育てに関する相談窓口の充実」についても約3割の方が必要と回答するなど、支援を必要としている人が適切に支援につながる仕組みの構築・充実が必要であることがうかがえます。



出典：都筑区区民意識調査

◆高齢者支援について

高齢者の生活で特に不安なことについて、過半数以上の方が「介護が必要な状態になること」や「健康や病気のこと」、「生活費や収入のこと」が不安と回答しています。



出典：都筑区区民意識調査

◆健康づくりについて

平成28年の都筑区民の平均自立期間は男性が81.10歳、女性が85.14歳となっています。平均寿命から算出すると、日常生活に介護を要する期間が、それぞれ男性で1.77歳、女性で3.57歳となる見込みであり、男女ともそれぞれ横浜市平均より長い期間となっています。

また健康づくりのために取り組んでいることでは、「日常生活の中でのちょっとした運動」「バランスのよい食事」「定期的な健康診断」「十分な睡眠」の順で多く回答があり、重要だと思う取組について、取り組まれていることがうかがえます。

○18区別平均自立期間と平均寿命（平成28年）

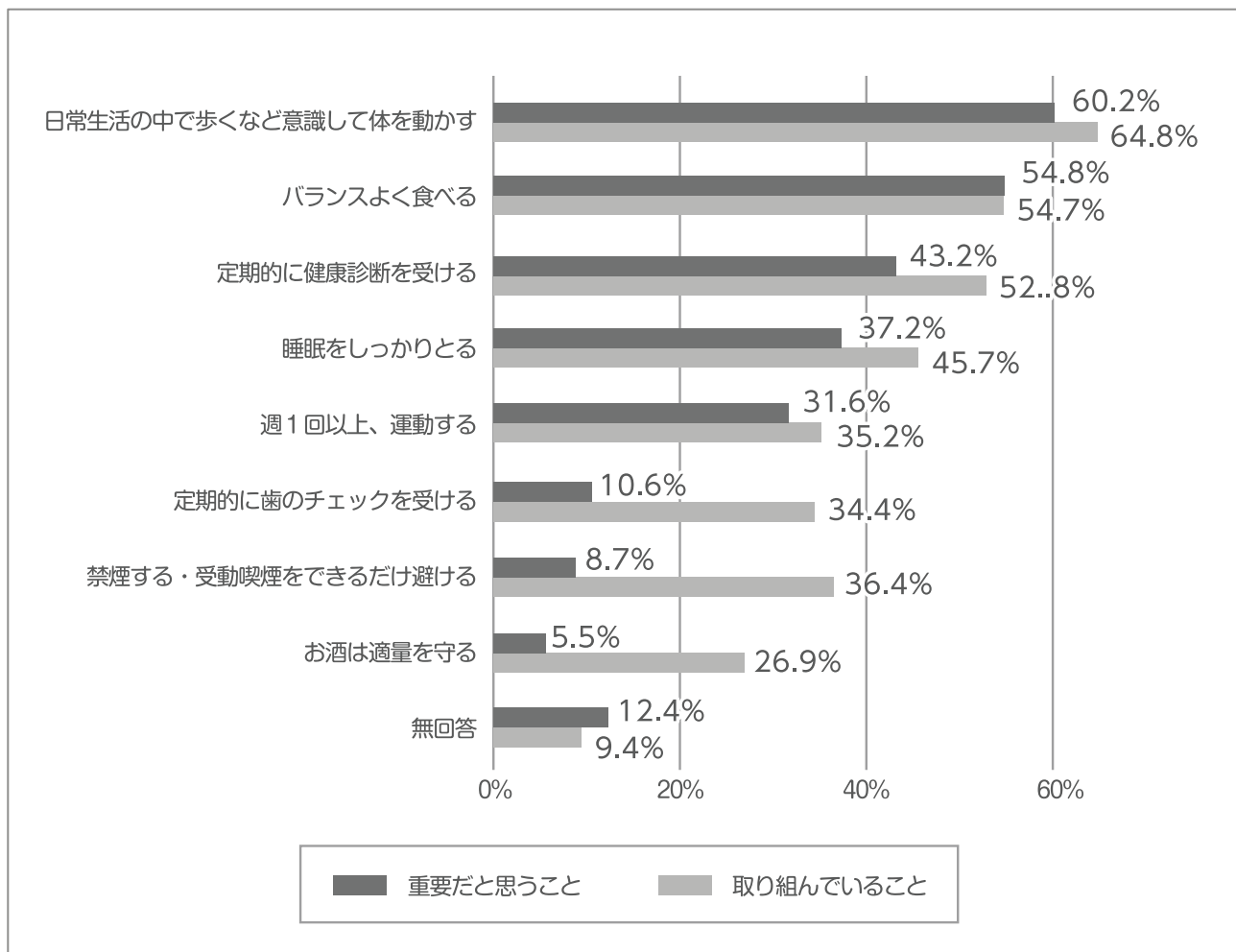
平成28年18区別 平均自立期間	男		女	
	平均自立期間	平均寿命	平均自立期間	平均寿命
横浜市	79.61	81.37	83.3	87.04
都筑区	81.1	82.87	85.14	88.71

※平均自立期間

出典：第2期健康横浜21

「日常生活に介護を要しない期間の平均」を指します。

○健康づくりの取組で重要だと思うこと、実際に取り組んでいること（令和元年度区民意識調査）



◆新型コロナウイルス感染症を受けて ～地域の中のつながりを絶やさないために～

新型コロナウイルス感染症の対策は、ワクチンの開発や効果的な治療法の確立に向けて、各方面で注力がされていますが、未だ途上にあります。この先、身近な地域で感染が拡大し、健康リスクが高まったときには、「居場所」の活動を縮小、休止することも含めて、活動の進め方を判断していくことが大切です。

昨冬の感染拡大期、活動を縮小や休止した各地区では、つながりを保ち続けるために、様々な取組が行われていました。

感染予防を徹底し規模を最小限に絞り活動を続けた団体、活動休止の間に手紙やマスクなどの贈り物を送り、思いを届け続けた団体、電話、メール、SNS を活用し連絡を取り合ったり、交流の機会を設けた団体など、感染予防や健康管理に十分留意し、地域の中のつながりを絶やさないために様々な工夫をした取組が動き始めています。

「今」の感染状況をふまえて、地域の活動者で話し合い、地域の中のつながりを保ち続けましょう。

地域の中のつながりを絶やさないために
～今できること、これからのことを考える～

1. まずは自分の暮らしを第一に
今回の新型コロナウイルス感染症の拡大といった事態は、誰もが当事者となり得る事態と なっています。多少少なかれ、感染のリスクや、自分がウイルスを拡げてしまう側になるかも しれないという不安を感じている方もいると思います。
地域で福祉関係に関わる活動をしている方も、まずは自分や家族の暮らしを第一に、健康維持や感染防止に十分留意しながら、決して無理しないことを基本にしましょう。
そのうえで、これまでの活動を続けてつらかった人や、同じ地域に住む人と、今できること、そしてこれから必要なことを、無理のないタイミングで、できることから考えてみましょう。

2. 集まらなくても取り組める方法を考える

① 電話・手紙・オンライン会議 など
訪問による見守り活動ではなく、電話での声掛け、手紙などの ポストイット、オンライン会議の開催などチャレンジ

② ご近所同士で見守り合い

③ おうちでシェア
おうちでできることシェア（共有）する
（家でできる体操等を掲載したプリントの配布、 手紙のできる人がマスクを手作り など）

地域福祉活動やボランティア活動のうち、特に居場所づくりの活動は、この感染症と相性が悪く、さまざまなつながりづくりが 阻害されてしまう状況にあります。しかし、この状況を前向きにとらえれば、身体状況・家庭の事情等により、日頃から集まりづら い人とのつながりづくりを考えると、考えやすくなります。
今までの活動よりリーマやリ方だけでなく、新たな仲間を募集し一緒に活動を出し合うことで、新たな取組が生まれたり、さき ざまな活動が継続する活動の回復や広がり、学習者も含めたネットワーキングを構築することにつながるなど、危機感が入り込むことも あります。
もちろん、今までの範囲でのつながりづくりはとも重要な活動です。大変な状況ではありますが、改めてお互いを気にかける 気持ちやこれまで積み重ねてきた活動への思いなどを確認しながら、また笑顔で集まることのできる日まで、さまざまなアイディア やチャレンジを共有して、つながりづくりの新たな一歩を動いていきましょう。



「つづき あい通信」第 25 号抜粋

ソーシャルディスタンスを意識して開催した地域懇談会の様子